

研修員's VOICE

Vol. 29

世界各国からJICA沖縄にやって来た
研修員を紹介しています。



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

2030年に向けて
世界が合意した
「持続可能な開発目標」です

17 パートナシップで
目標を達成しよう



氏 名: Ms. VALLEJOS KOHATSU
Elizabeth Karina (小波津 カリナさん)

国 名: ペルー共和国

コース名: 沖縄ルーツを通して学ぶソフトパワー活用と
地域活性コース

研修期間: 2019年9月29日 ~ 2019年10月26日

ペルーの日系人社会とは？

南アメリカ西部に位置するペルーは、豊かな自然や文化、様々な人種や民族が共存する多様な国で、ペルーにおける日系社会もこの多様性の一部です。1899年に日本から最初の移民がペルーに渡り今年で120周年、ペルーでも記念行事が催されました。

現在ペルーの日系人は約10万人に上り、その7割が沖縄にルーツを持つ沖縄県系人と言われています。私は曾祖父が西原町出身の日系4世で、現在ペルー沖縄県人会の文化部長として、舞踊や三線、エイサー等の演芸会やサークル活動、沖縄料理を囲んでのカラオケ会、慰霊の日の写真展など様々な活動を行っています。



ペルー沖縄県人会での三線イベント

研修に参加した目的は？

2007年に沖縄県県費留学生として初めて沖縄を訪れ琉球大学で1年間日本語を学びました。その後、ホームステイやウチナーンチュ大会で来沖し、今回が4回目の来沖となります。ウチナーンチュのルーツやアイデンティティを再認識し、沖縄について学びを深め、今後の県人会の活動に活かしたいと思い、研修に参加しました。

現在ペルーは4世、5世の若い世代となっていますが、彼らの多くが自分のルーツを知らない、または興味がないことが大きな問題です。県人会の活動に参加する若者は増えつつありますが、参加者の半数以上は沖縄のことをほとんど知らないのです。



空手会館にて空手体験(左から3人目がカリナさん)

沖縄での学びと今後の活動

研修を通して、これまで知らなかった沖縄や移民の歴史、沖縄戦や基地問題について学んだことはとても重要で、コース名にある「ソフトパワー」の持つ意味を正しく理解できました。今後を担う若い世代に、学んだことを共有し継承していくことで、ウチナーンチュの魂が次世代に繋がると信じています。

本部町でアセロラの生産、加工、販売の地域活性化事業を見学しましたが、今後のビジネスモデルとしてとても参考になりました。将来的には沖縄県、WYUA(世界若者ウチナーンチュ連合会)とのネットワークを強化し、ペルーの若者たちとのビジネスを考えていきたいです。



アセロラジャム作りに挑戦しました

持続可能な開発目標 (SDGs) とは、「誰一人取り残さないーNo one will be left behind」を理念として、国際社会が2030年までに貧困を撲滅し、持続可能な社会を実現するための重要な指針で、17のゴールが設定されています。JICAはSDGsの達成に向けて積極的に取り組み、17のゴールに貢献する研修を実施しています。